

第 96 期部門長挨拶

部門長(第96期)永井 二郎

日本機械学会技術と社会部門の第96期（2018年度）部門長を務めることになりました福井大学・永井二郎です。前期部門長の神谷和秀先生（富山県立大学）からバトンを受け、副部門長の筒井壽博先生（弓削商船高等専門学校）と幹事の小宮聖司先生（神奈川工科大学）をはじめとする運営委員会委員の皆様ならびに日本機械学会事務局・大橋江利奈さんのご協力のもとで、本部門に関わる全ての皆様にとって有意義な1年となるよう運営業務を務める所存です。



歴代部門長のように、本部門運営に際して幅広い知見・経験や確固たる理念・信念に基づいた所信表明をすることが出来ず、お恥ずかしい限りですが、本部門との関わりも含めた自己紹介と抱負を述べたいと思います。

本部門が新設された1991年は、私は博士課程1年の大学院生で、指導教員が西尾茂文先生（当時、東大生研・第77期本部門長）でした。記憶がぼやけていますが、西尾先生からだったか、あるいは日本機械学会誌を通じてであったか、「技術と社会」という部門が設置されたことを知り、漠然とした興味を持ちました。専門分野としては私は熱工学分野に主に関連していません。熱工学に関する研究成果の議論や知見の蓄積という役割を学会が担うことはその当時理解し始めていましたが、工学技術者としては、より広く社会全体とのつながりを考えるべきではないかと感じ、この「技術と社会部門」がそういう場を提供してくれるのではないかと感じたからです。その後福井大学にて教員として働き始め、1998～1999年と2002～2003年には本部門の運営委員となり、ほんのわずかですが、本部門の役割や運営の様子を知ることができました。その後しばらくは本部門の活動からは離れておりましたが、昨年から復帰（？）した次第です。

本部門の活動は多岐に渡っております。他部門と同様に、部門講演会や部門主催国際会議（ICBTT/TS）ならびに年次大会でのOS等を企画・開催し、技術教育・工学教育（CAD設計、エネルギー環境を含む）、機械技術史・工学史、技術者倫の理などに関する研究調査の議論と知見の蓄積を行っています。さらに本部門に特徴的な活動として、機械遺産認定の実務や200回を軽く超えたイブニングセミナーの開催、技術者倫理セミナーや各種公開講座の開催など、広い意味での社会における技術の果たすべき役割の考察とその広報活動を粘り強く継続的に行ってきました。今、学会本部では部門制のあり方を見直す動きがあり、学術を基盤とした「領域」と、その領域を横断・融合した「分野」に再編する考えが提案されています。私個人の意見ですが、本部門は設置当初からこの「分野」に該当し、全ての学術専門分野を横断したベースとなっていると思います。極論でいえば、私の学術専門分野である熱工学部門が無く

なっても、他部門や他学会で十分にカバーできるのではないかとすら思えます（約20年前に、熱工学部門の部門同好会にて、若気の至りですが“熱工学部門は無くてもいいのではないか？”と発言し物議を醸し出しました）。しかし、技術と社会部門は他にカバーできる組織が無く、強いて言えば日本機械学会全体でしかカバーできないと思っています。この特徴ある本部門の活動を今後も持続可能とするにはどうすればよいのかを意識しながら運営業務を務めます。1年間、どうぞよろしくお願い致します。

(福井大学 永井二郎)

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.38

(C)著作権:2018 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門